

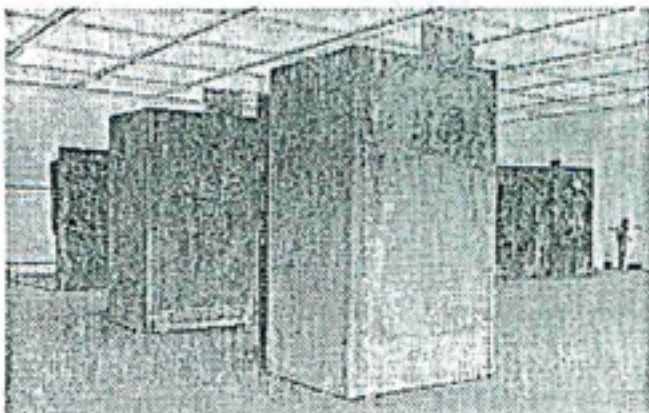
朝日新聞

夕刊

朝日新聞西部本社
 北九州西小倉北門外一丁目
 電話(093)531-1111
 福岡新聞印刷局

1988年(昭和63年)3月11日 金曜日

若林氏の鉄による彫刻



若林番・滝純一展

若林は一九三六年生まれ。現代日本彫刻展

鉄による現代彫刻では日本を代表するひとり若林番(いざ)と、九州在住で若手真像系洋画の代表格のひとり滝純一のが、一点を除いて新作だ。両者作品展が、北九州市立美術館(北九州市戸畑区西瀬ヶ谷)で同時に開かれている。

すこぶ強さを親しき…迫る重量感

鉄の特性鉄に語らせる若林

「三丁の鉄の角柱を林立させたり。いずれも鉄による巨作で、昨



滝純一「風の島」(1987年作)

孤独で不安な魂を描く

滝

繁栄と並行して進む「現代」の荒廃

秋、北九州市で開かれた鉄彫刻シンポジウムで、重量感と迫力がある。かつての若林は、独特の観念を竹念を、鉄を自在に彫形して表現していたが、今回は鉄そのものが主役だ。若林は鉄に自己

滝は一九四四年生まれ。熊本県、福岡教育大教授、二代会長。七三程の「予知」から未完の大作「風島」まで、三十九歳で十五年間の息づきをよりかえている。

八二年から八三年にかけてのウィーン留学で、團風が二校している。主題は現代と現代人で一貫しているようだ。留学前の、ウィーン幻想曲を思わせる細密で超現実的な表現から、おぼろげな表現の後像的な心象風景に転換する。

「歩く犬」「迷い犬」「風地」などの大シリーズが、福岡那後に始まる。時々雄偉なる光景を背景に、シルエット風に浮かび上がるやせ太たちは、現代人の孤独で不安な魂そのものだ。「風の島」など、閉じた嵐島の島に、昨年から取り組んでいる。古代の遺跡のようになっている。古代の遺跡のようになっている。古代の遺跡のようになっている。

——若林新展は24日まで。滝純一展は21日まで。